体験型海外教育実地研究　－第３学年異文化間教育「Let's communicate by gesture!」－

教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　浅野　博子

1　はじめに

近年、教育の分野においても国際化が進展し、小学校でも国際理解教育やその一環としての英語活動が行われるようになってきた。筆者はこのような現状に興味をもち研究に取り組んでいるが、日本の子どもたちに求められる国際理解教育がどのようなものであるかはまだまだ議論の余地があると考える。よって本授業に参加し、アメリカ合衆国の小学校を訪問し、現地の子どもたちと関わったり、自身が異文化を体験したりすることで、これらの問いを考えるヒントを見つけることができるのではないかと考えた。

2　実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	1210－1240　L304　履修等、説明会		
5/31	木	1435－1605　L304　オリエンテーション ミニ講演会・フォーラムの打ち合わせ		
6/8	金	1300－1500　C527　ミニ講演会		
6/9	土	1300－1730　広島ガーデンパレス　第３回学校間交流国際フォーラム		
7/5	木	1435－1605　事前研究１	個別研究テーマの設定 授業実践研究の内容と方法 日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）について内容と方法の打ち合わせ	
8/2	木	1435－1605　事前研究２	授業の教材開発と指導法研究 指導案・教材・教具の交流と検討	
8/30	木	1330－1605　事前研究３	指導案・教材・教具の交流と検討 日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）について内容と方法の打ち合わせ	
9/11	火	1435－1700　直前打ち合わせ	日程などの確認 渡航準備 日本文化の紹介（エクスプローリス・ミドルスクール）の内容と方法	
9/15	土	広島－成田 0745－0925（NH－3128） 成田－ワシントン 1110－1040（NH－2） ワシントン－ローリー 1240－1359（UA－459）		米国ノースカロライナ州 Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriot Dr, Raleigh, NC27612

				TEL(919)781-7000 FAX(919)781-3059
9/16	日		East Carolina University 事前打ち合わせと準備 18:30 Potluck Dinner at Ledford's, 106 Christina Dr.	Greenville City Hotel&Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 TEL(877)271-2616
9/17	月		Elmhurst E.S.(K-5) (Ms. Suzanne Hachmeister) 学校見学	Greenville　同上
9/18	火		Elmhurst E.S.(K-5) (Ms. Suzanne Hachmeister) 授業実践	Greenville　同上
9/19	水		Duke University	Raleigh Sheraton Raleigh 421 S. Salisbury Street Raleigh NC27601 TEL (919)834-9900
9/20	木		Exploris M.S. 日本文化の紹介 Exploris Museum Natural Museum	Raleigh　同上
9/21	金	ローリーーワシントン 1025－1131（UA－7139） ワシントンーニューヨーク 1230－1351（UA－7365）	ニューヨーク観光	New York Raddison Lexington Hotel 511 Lexington Avenue 48th Street New York 10017 TEL(212)755-4400
9/22	土		ニューヨーク観光	New York　同上
9/23 9/24	日 月	ニューヨークー成田 1230－1525（NH－9） 成田ー広島 1725－1900（NH－3129）		機内泊
11/1	木	1330－1615　事後学習会　アメリカで実施した授業の概要、成果、課題等につい		

		ての発表

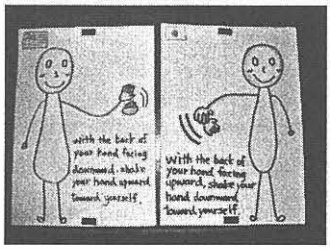
3　実地研究授業

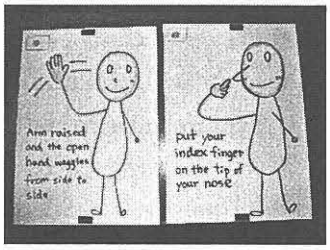
3.1　単元等名　第３学年異文化間教育「Let's communicate by gesture!」

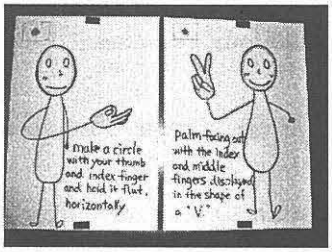
3.2　事前準備

本授業の特徴は、そのテーマを非言語に当てているところにある。日本と外国の文化を比較する時、私達はとかく言語の違いに目を向けがちである。確かに言語の違いのために様々な困難が生じることは想像するにたやすく、言語は文化を比較する上で重要なテーマの１つであると言える。しかし実際に私達がコミュニケーションをする際には、言語以外の様々なものも用いている。そこで、本授業では、授業者(淺野)と児童の母語が異なるということもあり、非言語コミュニケーション、特にジェスチャーに着目した単元を組んだ。そのねらいは、互いのジェスチャーの共通点や相違点に気づくこと、また自文化を客観的に見つめ返すことにある。

授業を行うにあたり、日本とアメリカで共通のジェスチャーと異なるジェスチャーを知る必要があった。そのため、外国人目線で書かれた資料や文献を読み、授業の中で紹介するジェスチャーを決定した。以下にその一例を示す。







3.3　学習指導案

Lesson title: Let's communicate by gesture!

Lesson Author: Hiroko Asano

Date: September 2007

Grade Levels: 3

Subject: Multicultural Education

Description: In this lesson, students notice that they can communicate with people by gesture not only by language. And they learn the similarity and differences between Japanese and American gestures.

Goal: This lesson will encourage students to use the higher level thinking skills and help them develop a respect for their own culture and different one.

Objectives: As a result of this activity, the children will be able to:

1. Understand that there are similarity and differences between Japanese and American gestures.
2. Be interested in Japanese culture and own culture.

Materials, resources and Technology: picture cards, some papers and pens for making cards

Procedure:

Activity Students will	Instruction of teacher Teacher will	Preparation materials
1. Act and guess the quizzes about sports.	1. Explain this lesson's activity "Let's communicate by gestures!" And show some gestures to have students notice they can communicate with people by gesture.	1. some themes for acting and guessing quiz
2. Think about the cause of misunderstanding between Japanese and American through a story about gesture.	2. Show a story to have students think about difference of gesture.	2.A picture-story show
3. Learn that there are similarity and differences between Japanese and American gestures.	3. Show some examples (like come over, go away, money, peace, good-bye etc) And especially about "*Ojigi*" teacher will explain in detail.	3. some picture cards of gestures
4. Make a card (like *Karuta*) about American gesture for Japanese students.	4. Explain how to make a card and have students choose one gesture for drawing.	4. some papers and pens for making cards
5. Listen to the teacher's impression on the class.	5. Sum up the lesson's points.	

3.4　授業の実際

授業を行う前段階として、児童がどの程度ジェスチャーの使用を意識しているかわからなかったため、授業前日に担任教師を通して、「普段どのようなジェスチャーを使っているか少し考えてみてね」というメッセージを児童に伝えた。

授業の導入では、本時のテーマ "Let's communicate by gesture!" を示すとともに、ジェスチャーを使った伝言ゲームを行い、言語だけでなくジェスチャーを通しても人とコミュニケーションができることを確認させた。

展開の前半部分では、導入でコミュニケーション手段としてのジェスチャーの存在について確認させたものの、実際は文化によってジェスチャーが違えば円滑なコミュニケーションにはつながらないことから、文化間のジェスチャーの違いに気付かせるための紙芝居を提示した。次に、日本とアメリカのジェスチャーを比較させるため、日本のジェスチャーを描いたカードを提示し、それがどういう時に使われるジェスチャーなのか想像させた。児童は授業者のヒントを参考にしたり、自分たちのジェスチャーと比べたりしながら、積極的に授業に参加していた。また、それぞれのジェスチャーについてアメリカと同じであるか、それとも違うものであるかを確認し、表に整理していった。紹介の最後には特におじぎについて取り上げ、その背景

や意味などについて説明した。その後、児童は「アメリカのジェスチャーを日本の子どもたちに紹介しよう」という目的のもと、ジェスチャーの絵とその意味を書いたカードを作成した。

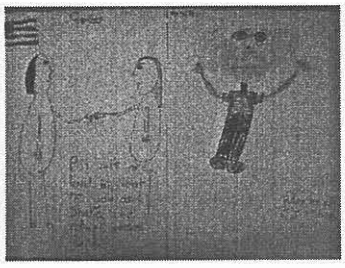
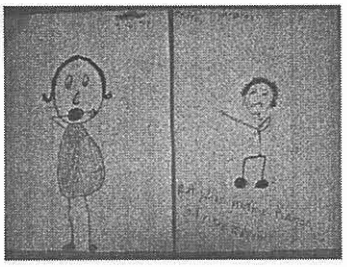
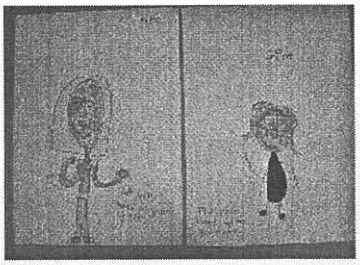
最後に、本授業のまとめを行うとともに、「他にも日本とアメリカで同じものや違うものがないか探してみてほしい」「自分たちの文化に誇りをもってほしい」というコメントをし、授業を終えた。

3.5 考察

導入部分で行ったジェスチャーを使った伝言ゲームは、本授業のテーマ理解と言語以外にもコミュニケーションをとる手段があること、またその１つがジェスチャーであることに気づくことをねらいとして行ったものであった。この活動を取り入れることで児童の緊張がとれ、その後の活動にも積極的に参加してくれたように思う。しかし、紙芝居を見せ、文化によってジェスチャーに違いがあることに気づかせようとした際、なかなか答えが出なかったところをみると、先の導入部分でジェスチャーの説明をもう少し加える必要があったと考えられる。また、普段当たり前のようにジェスチャーを使っているからこそ、それに目を向けるのに時間を要したのではないかとも思われる。

日本のジェスチャーとアメリカのジェスチャーを比較するところでは、児童はアメリカのジェスチャーを通して日本のジェスチャーの意味を考えるなど、実によく想像し、多様な意見を出していた。日本のジェスチャーという「知らないもの」を想像するということは、児童にとっては難しいものであったと思われる。実際の授業では、教師がヒントを出すなどして児童の想像を促したが、両者の比較の仕方をよりよいものに改良することが今後の課題である。

また、授業の後半で児童が作成したカードからは様々なアメリカのジェスチャーを見ることができた。これらには授業で扱ったジェスチャーを自分の絵や言葉で書き直しているものと、授業で扱ったジェスチャー以外を書いたものの２種類があった。前者を示した児童は、本時の内容をよく理解し、おそらく日本にも自分たちと同じジェスチャーがあることや、また一方で異なるジェスチャーがあることに興味を抱いたのだろうと思われる。また後者の児童は本時の理解に加え、自分の生活を振り返りその中からジェスチャーを取り上げ紹介しており、本時の活動が自文化の理解にも繋がったと考えられる。さらに、児童の中には表情といったジェスチャー以外の非言語に注目している者もおり、児童の視点の広がりを感じることができた。以下は児童が描いたジェスチャーの一例である。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

授業は、児童の実態があまりわからないのに加え、英語での実施であったので、内容や方法

を厳選する必要があった。また発言についても、その場その場で適確さが求められた。しかし、これはアメリカでの授業だけに限ったことではなく、実はどの授業にも求められることであると気づいた。また、学校の様子、教師の様子などの子どもたちを取り巻く環境は日本と異なる点も多いことに気づいたが、実際にアメリカの先生方と交流する中で、目の前の子どものためによりよい教育をしたいという信念は同じであることも感じた。一方、今回見たアメリカの学校の様子、またイギリス留学の際に見学した学校の様子、そして日本の学校の様子を比較することで、他国のよさに気づくだけでなく、日本のよさを感じることもできた。

4.2 自分自身についての変容

今回の研修では、アメリカの先生方や大学生との交流、また自分の授業に関することなどで私個人の意見を求められる場面が多くあった。自分の思ったことを述べればよいと言われるとなんだかとても簡単なことのように思える。しかし日頃から興味・関心をもって物事を見ていないとなかなか自分の考えをもてないということに気がつき、さらにはそれを表現することの難しさも痛感した。だが、様々な人々と関わる中で、自分のことをもっと知ってもらいたいと思ったり、相手のことをもっと知りたいとも思うようになった。そしてそのためにはやはり自分の考えをもちそれを表現することで、相互の関係をよいものにしていくことが大切であると感じた。

4.3 グローバルマインドに関する変容

自分がかかわったことで得られた発見は強く印象に残るということを実感した。筆者は授業の中で作成させたカードを見返していた際に、黒人の児童が顔を茶色で塗ることに初めて気がついた。白人・黒人・黄色人種といった違いはもちろん知ってはいたが、そのカードを見て初めて人種の違いがどういうことかわかった気がした。おそらくこれは、自分の中の「知らなかった自分」というものに気づくことができたためだと思う。このように「知らない自分」の存在に気づくこともグローバルマインドの育成につながるのではないかと考えた。

5 おわりに

知らないところに飛び出すことはとても勇気がいることであり、実際、不安や困難を経験することもある。しかし、それは飛び出したからこそわかることであり、その経験が自分のよさや課題を教えてくれるのだと思う。今回の研修でも初めて経験することが多くあったが、それによって自分がこれまで当たり前だと思っていたことが、決して当たり前でないということを知ることができ、自分や自文化を客観視する目を養えたように思う。

参考文献・資料

・Gary Imai 「Gestures: Body Language and Nonverbal Communication」2007/08/09 検索
〈http://www.csupomona.edu/~tassi/gestures.htm〉
・Hamiru・aqui 著『70 Japanese Gestures』IBC パブリッシング,2006
・Keegan 「Nonverbal Communication」2007/08/10 検索
〈http://library.thinkquest.org/04oct/00451/nonverbalcom.htm〉